



水中へ消えて行く 仲ノ池のカルガモの雛

2010年12月、芦屋に引っ越ししてきて3か月が過ぎた頃、何かで見た仲ノ池緑地の写真に水鳥が写っていたのを思い出し、安らぎの時を求めて時折この公園を訪れるようになった。冬は渡り鳥の季節で、仲ノ池には私が思っていた以上に沢山の鳥がいた。

やがて、カメラを片手に毎日通うようになった。ヒドリガモ、ハシビロガモ、コガモ、カルガモ、バン、そしてカワセミ。樹上にも沢山の小鳥がいて、ウグイスはもちろん、惚れ惚れするようなイカルの声が聞こえてくる日もある。鳥好きの私には夢のような場所に思えた。特に、水鳥に関しては1羽1羽の特徴を注意深く観察し、個体識別が出来るようになった常連の鳥には勝手に呼び名を付けた。いつしか鳥を介して、地元の人たちと自然に話をするようになっていった。

● 2011年6月上旬

いつものように公園へ行くと、一人の男性が「昨日カルガモが9羽の雛を連れてのを見た」と言って、携帯電話の動画を見せてくれた。でも、目の前の池には、しきりに「ウグオ、ウグオ」と鳴き続けているメスのカルガモが1羽居るだけで、雛の姿はどこにも見当たらなかった。一体どうしたことだろう？結局、私は1羽も確認することが出来なかった。

● 2012年4月末

3組のカルガモのカップルが縄張り争いを続けていたが、とうとうシロとユキと名付けたカップルが仲ノ池に残り、ここを子育ての場所を選んだようだった。5月中旬、ユキが毎日のように一定の草むらから出入りしていることに気付いた。もしかして、巣ではないだろうか!? シロとユキの雛が見られるかもしれない!と期待に胸が高鳴った。



● 2012年6月13日午前11時前

待ちに待った瞬間がついに訪れた。ユキが8羽の雛を連れてこっちに向かって泳いでくる。

感動の瞬間だった!なんて可愛いのだろう!

こんな愛らしい雛が育っていくのをこれから毎日見られるなんて、夢のようだ。



しかし、そんなワクワクした気持ちがわずか1、2時間のうちにもろくも崩れ去ってしまうことになるとは!! その時の私は想像もしていなかった。

ユキが浅瀬の角をくるっと回って私の傍に戻って来ると、雛が7羽になっていた。

あれっ!? どうしたのだろう!?

ユキがどこかに雛を1羽忘れて来たのではないかと一生懸命捜してみたが、8羽目の雛はどこにもいなかった。カラスなどが来た気配は全くなかった。

それから、しばらく後のこと、ジュポォッ!! 浅瀬にいるユキと雛達の周辺で変な水音がしたと思っただけの瞬間! ユキが「グォッ!」と唸り声を上げながら水中に向かって飛びかかった。そして、顔を上げて「ウグォ、ウグォ」と小さくくぐもったような声で鳴きながら、何かを捜している様子だ。1、2、3、4、5、6… えっ!! 変だ! 1、2、3… 何回数え直しても雛が1羽足りないではないか。一体どうしたというのだろう!!

雛が突然水中へと消えてしまったのは明らかだった!

後で判ったことだが、その日の朝7時頃に公園を訪れた人が、12羽の雛鳥がいたのを目撃していた。私が初めて雛を確認するまでの数時間の間に、既に4羽の雛が消えていたことになる。



その後、連日のように1羽が減り、2羽が減り、とうとう6日目の昼頃には、ユキの後ろについて浅瀬を泳いでいた最後の1羽も一瞬にして水中へと消え去った。ユキは狂ったように池中を飛んで雛を捜し回った後、石の上に上がっていつまでもいつまでも鳴き続けていた。

その後も、ユキは懲りずに何度も産卵し、子育てを続けた。2012年8月に9羽、2013年5月に8羽、2013年8月に8羽の雛が誕生した。せめて1羽でも2羽でも助きたい! 祈る思いで見守るなか、2013年5月に生まれた雛のうち1羽だけが奇跡的に生き延び、8月の末には無事に仲ノ池から巣立っていった。

雛の安否を心配して見守る私に、公園を訪れる沢山の人達が声をかけてくれた。だが、このミステリアスな現象を知ったすべての人が「カラスにやられたんやな」「猫か?」「イタチかな?」と、地上で人が簡単に目にすることのできる生き物を犯人だと考え、水中に潜む肉食魚が原因かもしれないと疑う人は誰一人としていなかった。私はその度に、「いえ、違うんです。水中から襲われてるんです。雷魚がいるって噂もあるし、この池は一体どうなってるんですか?」と答え、雛が襲撃された瞬間の状況を説明した。あっという間に大騒ぎになっていった。そのうちに「ガーがいるらしいよ」と教えてくれる人も出てきた。私には聞いたこともない魚の名前だった。



雛が次々と水中へ消えていくなか、何人もの人達が時折水面近くを泳ぐ細長い大きな魚影に気付き始め、私自身も何度かその姿をカメラで捉えたが、なかなか特定することはできなかった。



2013年6月7日 午後2時頃、ついに巨大魚の正体を目の当たりにすることになった。体長1メートルを超える巨大な魚が、私の目の前の水面近くに浮かび上がって来た。体の模様や顔まではつきりと見えた。ぞっとしながらも、カメラのシャッターを切ることは忘れなかった。アリゲーターガーは、実在したのだ！すぐに知人を介して、市役所に写真を届けた。



● 2013年10月29日

池の護岸改修工事に併せて行われた魚類調査で、ついにアリゲーターガーが捕獲された。体長約130cm、体重16kg。アリゲーターガーは北米原産のワニのような口を持つ肉食性の魚で、世界最大級の淡水魚だ。ペットとして飼われていたものが、捨てられたのは間違いない。



● 2013年11月3日

その日から2日間にわたって市民参加の環境学習会が開催されるため、準備作業が行われていた。私は、4日のクラスに参加予定だったが、プールに入れられたアリゲーターガーを一足先に偶然見せてもらうことができた。アリゲーターガーは、一緒に捕まえられた体長50cm程のスポッテッドガーと身を寄せ合うようにして、プールの縁に張り付いてじっとしていた。調査会社の方から「これも明日までの命です」と説明された。4日の学習会が終了すると、剥製にするために搬送されることになっていた。



「雑草を食べた恐ろしくて嫌い魚」だったはずなのに、目の前にいる生き物はどこか心細そうで哀れに見える。よく見ると真ん丸の目をしている。

あー、そうなんだ。本当はこのコも被害者だったんだ…。

身勝手な人間に捨てられたペット。
そんな外来生物に脅かされている日本在来の生き物達。
こんな私達の身近なところでも、沢山の悲劇が起きていることをもっと多くの人に気付いてもらいたい。

そして、鳥や魚など私達の身の回りに暮らすすべての生き物達にも、私達人間と等しく命の重さがあることを改めて見つめ直し、大切に下さる人が一人でも多くなるよう心から願うとともに、私に温かい励ましの言葉をかけて下さり、ご協力頂いた多くの皆様方に深く感謝の意を表したい。

文・写真 / Michiko T. (翠ヶ丘町)



未来へ残したい仲ノ池の自然

～在来種を守るために私達にできること～

Mleko T. (岩園町)

仲ノ池緑地環境学習会

- 11月3日(日) 13時～15時
 - 11月4日(祝) 10時半～12時半
- 各日約80名が参加

今回の学習会は、水を抜かれた池の底の砂地に3つのテントを設営して行われ、参加者は4班に分かれて体験学習に参加。

- 1、アカミミガメやフナに素手で触ってみるコーナー
- 2、仲ノ池の水生物の展示コーナー
- 3、魚の体の仕組みを勉強するコーナー
- 4、投網を見学するグループ

2つの大きなプールが設置されていて、
1つには、体長約130cmのアリゲーターガーと
約50cmのスポッテッドガーが泳いでおり、
もう1つには、フナ、鯉、ブラックバス、ブルーギルなどが
入っていた。(水が濁っていて姿は見えない)
子供達は網ですくって魚の大きさや重さを体験。



ここに展示されているのは、全て仲ノ池に生息している生き物たちだ。
外来生物が種類も数も圧倒していて、日本古来の生物は、メダカ、小さなエビ、
イシガメ、クサガメ、フナ、ドブガイなどが細々と生息しているという事だった。
しかも、以前には確認できた在来種のタナゴ、モツゴは今回は見つからない。



漏水対策工事で水を抜いた現在の仲ノ池を見てビックリしたのは、
ほとんど水草が生えていないこと。

私が50年前の子供の頃に見ていた姿とは全く様相が違っている。
展示されている生物の中には、氷漬けになった50cm以上の草魚もいた。
(今回捕獲されたのは3匹) 草魚が水鳥の餌となり魚の産卵場所にもなる
水草をほぼ食い尽くした可能性があるようだ。



「池の生物を捕獲してみると、多くの種類の魚が居ますが、鯉、フナ、
ブラックバス、ザリガニ、めだか、ウシガエル、そのどれの子供も
ほとんど確認できず、ブルーギルの稚魚しか見当たりません。
この意味が解りますか？10年も経たないうちに、仲ノ池はブルーギルだけの
池になってしまうところでした」との説明には、ショックを受け暗澹となった。
外来種は全て私達人間が持ち込んだもの。在来種が弱くて生存競争に負けるのは
知っていたが、まさか、ブルーギルしかいない池になってしまうとは！！

現在、仲ノ池を少しでも本来の姿に戻そうと護岸工事が続いている。
今回捕獲された生物のうち、工事終了後に池に帰されるのは在来種に限られるようだ。
しかし、誰かが「世話が面倒になったから」と、自分の水槽の生物を池に放てば、
また数年後には、取り返しのつかない事態になってしまうのだ。



「写真提供：芦屋市」

私達人間一人一人が自分のやっている事の意味を考えて行動し、葦が茂り、水鳥が集い、フナやめだか、日本亀が暮らし、
翡翠が舞う、そんな本来の仲ノ池の姿を、未来の子供達のためになんとしても取り戻さねばと切に願う。



平成25年度 動物慰霊祭

お供え金は例年、動物慰霊祭経費に充てさせて頂いております。しかしながら、本年度は思いがけず多額のお供え金を頂戴しましたので、うち5万円を今後の動物塚の修繕・改修費として積立てる事と致しました。芦屋市とも相談し、動物塚が市民の皆さまの身近な存在として末永くお参りされるよう努めて参りたいと考えております。また供花も多数頂戴しました。動物たちも喜んでいただきたいと思います。

9月25日(水) 10:30~12:00

参列者 53名

納骨者 13名

納骨数 26体 犬:11 猫:14 兎:1

*慰霊祭当日 別途

寄付金として 3名様より 25,000円

3,000

3,000

3,000

3,000

5,000

2,000

10,000

Y様

K様

N様

K様

T様

N様

K様

西蔵町

浜風町

浜風町

高浜町

朝日ヶ丘町

前田町

浜風町

10,000

1,500

2,000

3,000

2,000

3,000

3,000

T様

N様

S様

A様

I様

I様

R会様

東山町

翠ヶ丘町

松ノ内町

朝日ヶ丘町

精道町

浜芦屋町

山手町

■初めて慰霊祭に参加して K.A.

秋のお彼岸で動物愛護週間でもあるこの時期に毎年行われている芦屋動物愛護協会の慰霊祭に、今回初めて参加させて頂きました。

晴天に恵まれたこの日、芦屋の高台にあって緑豊かな芦屋市霊園内の動物塚のまわりでは、まだ続いている残暑の中を時折すがすがしい風が通り抜け、心地よさを感じました。

動物塚には我が家の猫達も眠っており、何度かお墓参りには来たことがありましたが、今回は、慰霊祭を通じて初めてお会いした方々と気軽に交流することができ、今まで訪れた時とは違ったさまざまな気持ちがかみあげてまいりました。

遺骨を持って参加された方が多く、その中のお一人とお話をしたところ、その方はもう何年も納骨できないまま遺骨を持っていたけれど、この慰霊祭のことを知って思い切って納骨の申し込みをしたそうです。このような見晴らしの良い、沢山の仲間の眠る場所への納骨、そして献花ができて、今日参列させて頂いて本当に良かった!としみじみとお話されていました。他の参列者の方々も、それぞれに満足されている様子が伺えました。

かつて一緒に暮らしていた犬、猫、小動物たちは、かけがえのない私達の家族です。そんな彼らが亡くなった後の心の隙間を癒してくれる慰霊祭の存在を大変ありがたく感じるこの出来た一日でした。いつまでも、この慰霊祭が続いてくれることを切に願っております。

■猫のゆまちゃんとの出会いと別れ S.S.

ある日のこと、私は家の近くの公園で1匹の小さな弱々しい仔猫と出会いました。子供の頃から猫が大好きだった私の直感だったのでしょうか。この子は私が今拾ってやらなければ生きて行けないと思って連れて帰り、「ゆま」と名付けて我が家の一員として迎えることにしました。

それから始まった猫との暮らしの中で色々と思い出は尽きませんが、一番忘れることが出来ないのは、あの阪神大震災に遭った時のこと。崩れ落ちた家具の中に埋もれてしまった猫を助け出す迄は、何一つ荷物を持ち出そうという気持ちになれず、毎日何時間も必

死になって、倒れた家具と割れた食器、散乱した荷物の中を這いずり廻るようにして探しました。

やっと三日目の夜になって、小さな僅かな隙間に差し入れた指先に柔らかい猫の毛が触れた時の喜びを昨日のこのように思い出します。全身びしょりと濡れて震えていました。元々怖がりな神経質だったゆまちゃんは、この地震の時のショックでますます怖がりな性格になってしまったようでした。

猫を連れての避難所生活は、多くの方々のご迷惑になるし猫にとっても多大なストレスになると思い、東京に住む息子の所に半年ほど預かってもらうことにしました。

ところが半年後、やっとの思いで迎えに行けたというのに、今度は怖がって逃げ回るゆまちゃんをなかなか捕まえることが出来ません。二度、三度と泣き泣き手ぶらで帰ったこともありました。手を変え品を変え、最後は少量の睡眠薬を獣医さんに処方してもらい、ようやく捕まえられた時はどんなに嬉しかったことでしょう!今思い出しても目頭が熱くなってしまいます。それからは日に日に落ち着きを取り戻し、十二分に可愛がってやる事が出来ました。

私はこの猫と一緒に生活出来たことで、あの震災の辛さから乗り越える力をもらったと信じます。我が家に来てから22年の間、大きな病気をすることも無く、最期は私の腕の中で静かに息を引き取ってくれたことが何よりでした。4年前に動物塚に納骨させて頂いたゆまちゃんは、今は多くの仲間達と一緒にです。

今回初めて慰霊祭に参列して納骨された皆さんの中には、もしかしたらお別れが辛くて不安に思われていた方もあるかと思いますが、これからは、ここに来ればいつでも会えるし、1年に1度皆と一緒に



思い出話をする事も出来ます。どうか共に過ごした楽しかった思い出を、その愛らしかった姿を、動物達に癒された日々を忘れないであげて下さい。

(慰霊の言葉より)



リレートーク

Vol. 10 エール動物病院

TEL: (0797)34-5030 浜風町 3-10

HP: <http://air-ah.jp/>

◆ 動物との暮らしの変化

太古の昔より人間は動物たちとともに生活をしてきました。当時は一緒に暮らすというよりも生活をしてきたといったほうが正しいかもしれません。その中で動物たちは、人間にとって環境のバロメーターでもあったのです。動物が安心してくつろいでいる姿を目にすると、その場所には自分を襲うかもしれぬ敵はいないだろうし、その他の危険因子もなさそうだと考え、自らも落ち着くことができたのです。しかし逆に、動物が不安そうな行動をとれば、自分にとっても何か心配しなければいけないことがあるのではないかと感じたのです。つまり、当時から人は動物の幸福な姿を見ればリラックスすることができ、動物が落ち着きのない状態を見ると不安やストレスを感じていたのです。

長い時間が経過してもその感情には変わらないものがあるでしょう。ただ動物と暮らす環境は人間の生活スタイルによって変化し、多様化しています。

ペットとして、または家族として、というように人それぞれ感じ方も違います。それにあわせて我々獣医師に求められる医療も多様化しているように感じます。これだけ多様化したニーズを短期間で理解することはなかなか難しいものです。今後も家族へのインフォームドコンセントをしっかりと行い、家族の求める医療を提供できるように日々頑張っていきたいと思えます。



Vol. 11 ネクスト動物病院

TEL: (0797)38-5715 川西町 5-2

HP: <http://www.next-ah.com/>

はじめまして！今年4月に川西町に開院いたしましたネクスト動物病院の川上亮と申します。当院の特色として緑内障、白内障をはじめとする眼科、椎間板ヘルニアや骨折や腫瘍切除などの外科における高度医療に力を入れています。私自身が最も大切にしていますのは、飼い主様との対話（インフォームド・コンセント）そして視診、触診、聴診のテクニックです。これをおろそかにすることないよう日々精進致しております。

開院したばかりなので当院を詳しくご紹介しようと思ったのですが、ホームページなどをみて頂ければわかることですので、私の家族であるシーズーの「えめ」を紹介させていただきます。

私の母校は、北海道の酪農学園大学なのですが、その学生時代に里親募集をしていた、えめに一目ぼれをして一緒に暮らし始めました。北海道生まれなので、大平原や雪野原が大好きでいつも走り回っていました。病気も何一つしたことなく、獣医師国家試験の時も邪魔もせず、手のかからない子でした。



しかし、今年になって角膜潰瘍になり手術をしたり、副腎皮質機能亢進症（クッシング病）を発症したりと手がかかる子になっています。手がかかる子ほど・・・とも言いますが、いつまでも、そばにいてほしいのであまり病気になるいでね。ちなみに、自分をあまり犬とは思ってないらしく、散歩で犬に会っても見えないふりをする事と、ハンドシグナルだけでお座りなどの芸ができるのが特技です。

当院では、現在「うちの子自慢」を募集していますので、皆様の自慢や特技をお待ちしております。

最後になりますが、芦屋近隣の動物医療に少しでも貢献できるよう、毎日の診療に一生懸命取り組み、研鑽し続けますので、どうぞよろしくお願いたします。

犬のしつけ方教室こぼれ話

それは先日のしつけ方教室でのこと・・・

この日、兵庫県動物愛護センターの講師の先生が連れて来たモデル犬のララちゃんは、午前中に子どもたちとのふれあいという別のお仕事を済ませた後で、ちょっと疲れていたのかテンション低めの反応遅め。ご褒美がいつものおやつでは「えー？またあ？」という感じでダラダラしてしまいます。


教室には一応協会からのモデル犬としてスタッフの愛犬が参加していましたが、この子は足の短いダックスなので、どうもおすわりしているのかいないのかがわかりにくいなどの難点が…（苦笑）

やはりララちゃんにはメインで動いてもらいたいと思ったスタッフ、ふと思いついて講師の先生が使っているのとは違うおやつを使ってララちゃんに「おすわり」と指示を出してみました。するとララちゃん、とても良い反応でおすわりをしてスタッフの顔を見上げるではありませんか。それなら…と**新しいおやつを講師の先生が使うと、いつものようにキビキビと指示に従うやる気満々のララちゃん**になりました。

今はペット用品のお店に行くといろいろなおやつが並んでいて選ぶのに困ってしまうほどですが、犬の好みもいろいろ、おやつの目的もいろいろ。何か新しいことを教えたいときや、ビシッと決めたいときには、普段与えているものよりも少し嗜好性の高いもの・香りの強いものを使うと効果が上がることが多いようです。逆に、そういう嗜好性の高いおやつばかりを普段からたくさん与えていると、小食の子などはフードを食べなくなってしまうかもしれません。なので、**しつけのご褒美として使うおやつは嗜好性の高いものとそれほどではないものなどをランダムに混ぜて与えてみるのもひとつの方法**です。

次は何がもらえるのかな？という期待感でますますやる気が出てくることも多いですし、また何回かに1回はおやつなしで褒め言葉だけにして、だんだんおやつを減らしていく、という方向性も大事です。

しつけに使うおやつは、あくまでも褒められたことの証拠・褒め言葉の補完でしかありません。「**おやつの言うことを聞く**」のではなく、「**飼い主さんの指示に従うことが嬉しい**！」という気持ちにまでもっていかなければ、犬のしつけは上手く進めることが出来ません。おやつを効果的に使って、愛される飼い主さんになりましょう！



当協会では
3月から11月までの
毎月1回、市内を巡回して
しつけ方教室を開催しています。
詳細は広報あしや、
またはホームページをご覧ください。
どうぞお気軽にお申し込みください。

全国警察で初の取り組み

兵庫県警が「アニマルポリス・ホットライン」を新設！

（動物虐待事案等専用相談電話）

動物の虐待に気付いたら直ぐに通報を！

兵庫県警では、重要凶悪事件の前兆となる動物虐待事件への的確な対応を図るため動物虐待事案等専用相談電話「アニマルポリス・ホットライン」を設置することになりました。平成26年1月6日（月）午前9時から運用開始します。

動物虐待事案とは

- 犬や猫などを殺したり傷つけたりする行為
- 犬や猫などに餌を与えず衰弱させる行為
- 犬や猫などを捨てる行為

【アニマルポリス・ホットライン受付時間】

平日 9時00分～17時30分

【電話番号】(078) 371-8974

身近で動物虐待をしている人を見たり聞いたりした場合は戸惑うことなく断片情報でも結構ですから、兵庫県警にご相談ください！動物愛護関連の法令に詳しい警察官が対応します。



バザーの ご報告

色々な物品を提供して下さい下さった方々、沢山お買物して下さい下さった方々、寄付や募金に協力して下さい下さった方々、スタッフへお菓子・飲物を差入れて下さった方々、頑張って働いてくれたスタッフの皆さん、いつも温かいご支援とご協力を頂き、本当にありがとうございます！皆様のお陰で、今年も沢山のワンちゃん、猫ちゃんを助けることが出来ました。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

平成25年 6月		日時	6月29日(土)30日(日) 10:30~16:30
		場所	ギャラリー安並
		販売品提供	40名様
		スタッフ	のべ47名
収入	売上	378,700	計 411,313 円
	寄付金	15,200 (4名様)	
	募金箱	17,413	
支出	会場費	30,000	計 89,813 円
	仕入	5,000	
	消耗品等	11,338	
	通信費	3,640	
	福利厚生費	33,035	
	交通費	5,900	
	雑費	900	
	会場使用料	クッキー	
衣類ケース・値札他			
業内・礼状発送			
スタッフ昼食・動物代			
道路通行料・駐車場代			
ゴミ処理代			

収入 - 経費 = 基金算入額 **321,500 円**

平成25年 11月		日時	11月23日(土)24日(日) 10:00~16:00
		場所	精道アパート
		販売品提供	48名様
		スタッフ	のべ41名
収入	売上	292,120	計 330,186 円
	寄付金	15,000 (4名様)	
	募金箱	23,066	
支出	会場費	20,000	計 82,716 円
	仕入	5,000	
	消耗品等	7,784	
	通信費	15,000	
	福利厚生費	28,132	
	交通費	5,900	
	雑費	900	
	会場お礼	クッキー	
業内ハガキ発送			
スタッフ昼食・動物代			
道路通行料・駐車場代			
ゴミ処理代			

収入 - 経費 = 基金算入額 **247,470 円**

○ 寄付金

平成25年4月1日~平成25年10月30日

合計 **385,245 円**

寄付金をお寄せ下さった皆さまに厚く御礼申し上げます。どうか、今後も引き続きご協力賜りますよう 宜しくお願いいたします。

年	月	住所	お名前	金額	年	月	住所	お名前	金額	年	月	住所	お名前	金額
25	5	岩園町	S動物病院様	10,000	25	6	松ノ内町	S様	3,000	25	8	山芦屋町	Y様	10,000
	5	南宮町	T様	50,000		6	浜町	F様	1,000		8		幹事一同	12,045
	5	精道町	I様	10,000		6	浜風町	K様	1,000		8	川西市	H様	5,000
	5	奥池南町	Y様	8,000		6	奥池南町	K様	10,200		8	翠ヶ丘町	N様	10,000
	5	若葉町	A管理組合様	50,000		7	朝日ヶ丘町	T様	50,000		9	西蔵町	T様	10,000
	6	神戸市	I様	1,000		7	若葉町	N様	10,000		9	高浜町	I様	3,000
	6	奥池南町	K様	3,000		7	浜芦屋町	H様	10,000		9	浜松町	M様	2,000
	6	岩園町	S動物病院様	13,000		7	西宮市	N様	5,000		9	伊丹市	M様	20,000
	6	奥池町	M様	4,000		7	業平町	T様	2,000		9	奥池南町	N様	30,000
	6	川西市	N動物病院様	5,000		7	神戸市	Y様	10,000		9	岩園町	S動物病院様	10,000
	6	瀬見町	N様	10,000		7	神戸市	O様	3,000		10	浜町	S様	10,000
	6	月若町	O様	3,000		7	三条町	Y様	3,000					
	6	山手町	S様	3,000		7	松原市	K様	5,000					
	6	朝日ヶ丘町	M様	18,000		7	若宮町	H様	1,000					
	6	川西市	F様	2,000		7	奥池南町	U様	4,000					

入会案内と寄付の受付

平成24年度に改訂いたしました。一律を改め、1,000円/一口より受付しています。口数はお気持ちでお納めください。出来れば二口(2,000円)をお納めくださいますと、新規事業にも着手しやすくなります。ご協力宜しくお願い致します。

使途について

年会費 動物愛護啓蒙・推進事業費、会報作成・発送費、通信・事務費等

寄付金 動物(主に犬猫)を保護した際の医療・飼養・里親譲渡までにかかる費用

会費 1口:1,000円/年 2口:2,000円/年 3口:3,000円/年 (入会金はありません。)

1 協会事務局(芦屋市役所・経済課)窓口にて

住所・氏名・電話番号をご記入のうえ会費を添えて

動物を愛する全ての方の入会を歓迎致します。

2 郵便振替口座へ会費等を送金

口座番号:00960=8=265605 口座名:芦屋動物愛護協会



芦屋動物愛護協会 Ashiya Society for the Prevention of Cruelty to Animals

事務局:芦屋市役所経済課内 電話:0797-38-2033 Web:http://www.ashiyaanimalsociety.com/

Mail:ashiya_animal@hotmail.com